

校長最後の年の3月31日、心残りなく校舎に施錠させてもらった。

平成30年10月8日記

ある年4月下旬ある私立高校のH教頭から、「山下君、ぼかあ、君に感謝してるよ、ほんとに。お蔭でこの間の3月31日、心残りなくA中学校校長として最後の鍵を閉めさせてもらったよ。ありがとう！」と声をかけられた。

H教頭先生が校長をしていたA中学校で、1年生の4月僅か1ヶ月だけ登校しただけで、その後不登校になり、同校の先生方も一生懸命対応したにも関わらず、病院にもかかったが改善されず、フリースクールも紹介したが行かず仕舞いの生徒が、入試も終わった3月に、B専修学校進学が決まり、校長として最後に卒業証書を渡すことができた。私はそのお手伝いをさせて頂いた。

彼のお父さんが私のところに相談に来たのは、同年2月3日。聞くに、2つ年上の兄も、同中学校1年の1学期は学校に行ったものの、「疲れる」と言って2学期から不登校に。その後ずっと部屋にひきこもったままだと言う。当の本人も、兄の不登校に相呼応して小学校5年生から不登校になった。

翌2月4日、私は当NPO静岡県教育フォーラムの活動が紹介されたテレビ番組やニュースを収録したビデオテープを彼の家に届け、反応を待った。そして2週間後の2月19日(金)午前11時半、彼が1人で私共の事務局教室に来た。彼は来週の月曜日21日から当教室で英語をやると約束してくれた。

21日、彼が来る前に、だめもとで入試を終えたB専修学校校長先生に学校見学を打診した。場合によっては特別入試の快諾も得た。午前10時に来た彼に、アルファベットと中学1年生の英語の教科書L1§Aを教えた後、私はB専修学校見学を勧めた。彼もその学校見学に興味を示した。勿論、この日から彼には不登校解消に向けて個別のプログラムを始めた。

翌22日午前中2時間、中学校1年の数学第1章の絶対値までを教えた後、私は彼に翌日の午後、母親と一緒にB専修学校に見学に行こうと話したが、返事は無かった。彼の帰宅後の昼、父親から電話があった。彼が私共の教室に通い始めてホッとしていること、B専修学校の学校見学も本人が行くと言えば連れていく、入学にかかる費用は勿論出すことも了解した。午後1時過ぎ、再び父親から電話があった。本人からB専修学校見学に行きたいとの話があり、翌23日午後母親と一緒にいくと弾んだ声だった。夕方A中学校の担任の先生からB専修学校に、翌23日午後の学校見学の申し込みをしてもらった。

B専修学校の学校見学で彼は同校進学を希望し、前述の通り次年度入学者選抜試験を終えていたB専修学校は、3月10日に特別入試を実施してくれた。B

専修学校は、中学校の殆どが不登校であった彼の事情を考慮して頂き、自己推薦書と課題作文で入学を審査してくれた。翌週の月曜日 13 日、彼の元に B 専修学校入学合格証が届いた。

その後彼は月曜日から金曜日まで毎日 2 時間、春休みも返上して当教室で中学校の勉強をした。

そして 3 月 19 日午後 4 時、A 中学校校長室の「たった一人の卒業式」で、彼は H 校長から A 中学校の卒業証書を頂いた。

その後彼は B 専修学校を卒業、C 大学に進学して、当フォーラムのリーダーとして不登校・ひきこもりの子ども達と関わってくれた。